

修 理 規 定

1. 本品の修理対象部分は次の通りです。
・内部電子回路
(接続ミス、走行(過負荷走行や衝突等)による破損は保証対象外となります。)
2. 本体ケースを開けられた場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。
3. 本品の接続ミス等によるレシーバ、サーボ等の破損については責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 修理依頼カード(下記)もしくは、修理依頼シート(ホームページ)のご記入のない場合、修理返却が遅くなる場合がありますのでご注意ください。

保 証 書

品 名 製造番号	超小型ブラシレススピードコントローラ TACHYON	お買い上げ 年月日	年 月 日
		保証期間	お買い上げ日より3ヶ月
お客様 ご住所 電話番号	〒 - TEL ()		
お名前			

お買い上げ年月日、販売店の記入がない場合は保証期間内でも有償となります。ご注意ください。

- お買い上げ日より3ヶ月以内に故障が発生した場合は、症状、使用状況を下記にご記入のうえ、商品に添付していただき、お買い上げの販売店または、弊社テクニカルサービス課までお送りください。
- 搬送中の破損・紛失につきましては、弊社では責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 修理ご依頼の際の症状等につきましては、弊社HPの修理依頼シートをご利用の上、本保証書と併せてご送付いただきますと便利です。
(HP上段右側「修理について」をクリック。左側の「修理依頼シート」をクリック。)

修理依頼カード

1. 症状 できるだけ詳しくお書きください。

2. 修理代金お支払いについて

- 5,250円以下なら事前連絡不要
- 有償の場合は、必ず連絡してほしい

株式会社アキュヴァンス テクニカルサービス課

〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1-18-22
新大丸ビル別館 7F
TEL 06-6379-1191 FAX 06-6379-1190
<http://www.acuvance.co.jp>

販売店(店名・住所・電話番号)

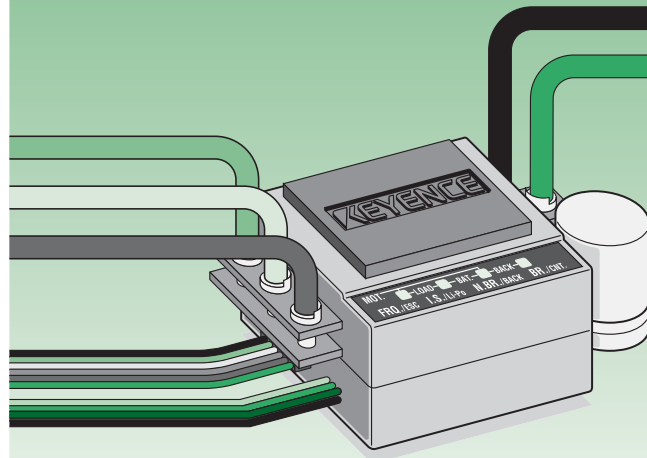
--

0413-9

Sensor Controlled Brushless E.S.C.

TACHYON

タキオン取扱説明書



ACUVANCE

タキオン取扱説明書

ご使用上の注意

警告

取扱説明書に出てくる重要警告事項の部分は、製品を使用する前に注意深く読み良く理解してください。

危険 重大なけがを避けるために守っていただきたいこと。

警告 事故を未然に防ぐために守っていただきたいこと。

注意 本商品を取り扱う上で知っておくと便利なこと。

バッテリーについて

危険 発煙、火災、火傷を防ぐために

バッテリーは、使用方法を誤ると大変危険です。取扱には十分注意が必要です。誤配線やケーブル間のショートなどは、発火や発煙の恐れがあります。バッテリーとスピードコントローラ(以下ESC)の脱着のときは、ESCの電源スイッチを必ず切ってください。バッテリーを使わないときは、ESCや充電器から取り外し、針金やビスなどのないところに保管しましょう。

シリコンケーブルの接続

危険 発煙、火災、火傷を防ぐために

ケーブルの接続を間違えると、発火や発煙の恐れがあります。また、ESC/バッテリーも修理できなくなることがあります。

特殊セラミックボードについて

危険 火傷を防ぐために

高負荷を伴う走行の後は、特殊セラミックボードの表面が高温になる場合があります。特殊セラミックボードには直接触れないようご注意ください。

取扱について

警告 事故、故障を防ぐために

ESCの改造、本来の目的以外での使用はしないでください。ESCを火気に近づけたり、加熱しないでください。また、本体を水などの液体にかからないようにしてください。

特長

- 特殊熱伝導カーボンシートと特殊セラミックボードのハイブリッド構造によりESC内部すべてのFETを同時かつ効率的に冷却するアキュヴァンス独自の『H.T.R.S.』※(特許出願済)を搭載。FET基板の多層化に加え、アルミヒートシンク・クーリングファンを不要とすることで大幅な小型化を実現しました。
- 小さな筐体(BODY)の中に、最新パワーMOSFETを積層構造で効率よくレイアウト。リバース対応ながら、コンパティションESCを凌駕する低ON抵抗性能を確保しました。
- ESC本体のボタン操作のみで、リバース解除はもちろん、ドライブ周波数・ブレーキ量などの設定変更が可能。さらに、設定項目・領域を広げる専用コントローラ(別売)を使用することで、その場でドライバーの好みに応じた走行フィーリングを得ることができます。
- パワーラインは、芯線数1,530本の高密度12ゲージケーブルを採用。伝導効率・フレキシビリティ共、高い性能を発揮します。

※H.T.R.S.:Hybrid Thermal Radiation System

世界初、ハイブリッド熱放射システム[H.T.R.S.]※により、すべてのFETを均一に冷却。クーリングファン+ヒートシンクを凌駕する放熱特性を発揮します。

規格

使用電源	4.8V～11.4V(バッテリーの種類は不問)
連続・瞬間最大電流	電池発生最大電流まで
ON抵抗値	0.24mΩ(FET規格値)
適合モータ	無制限
寸法	W31XD30XH19(突起部含まず)
重量(ESC本体)	35.0g
受信機/サーボ用レギュレータ	6V 3A出力

INDEX

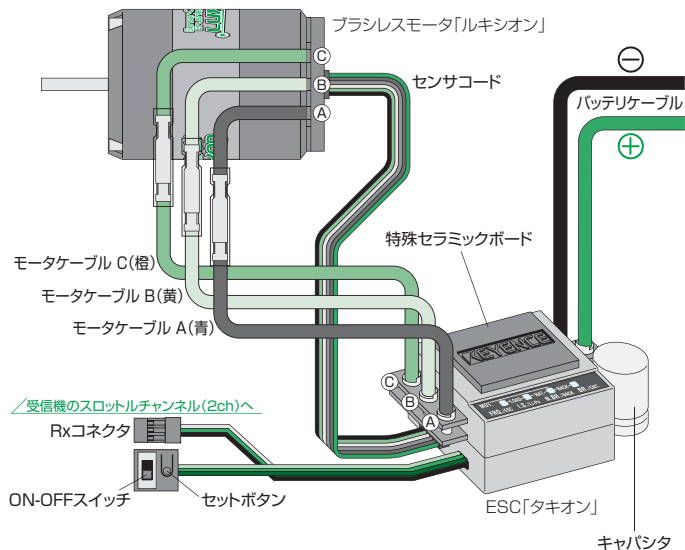
- P.4 TACHYONの接続方法
- P.6～P.9 走行前の準備
- P.10～P.15 走行フィーリングを変える
- P.14・15 機能一覧表
- P.16～P.17 TACHYON ESCモード セッティングフローチャート

各部の名称と配線

⚠ 危険 発煙、火災、火傷を防ぐために

バッテリーの極性を間違えないように十分注意してください。ESCの故障の原因になります。

下図の通り接続してください。



●センサコード

ホール素子による位置信号をESCに伝送するコードです。ESC側・モータ側とも同形状のコネクタですので、向きは区別はありませんが、差し込み時は形状に合わせて差し込んでください。このコードが接続されていないとESCの初期設定を行なうことはできません。(勿論、走行する際にも接続したままとしてください)接触不良は誤作動や破損の原因となるため、しっかりと接続してください。また、センサコードの改造は故障の原因となるため絶対におやめください。

●モーターケーブル(A・B・C)

センサコードにてESCに伝送された信号をもとに、タイミングを計りながらモーターコイルに電圧をかけるケーブルです。LUXONにはギボシコネクタ付きケーブルをあらかじめ装着しておりますので、弊社製ESC「TACHYON」との接続時はハンダ付け作業が不要です。

注意

ケーブルを半田付けする場合、ワット数の高い半田ゴテ(GOW相当)で短時間で作業を完了してください。ワット数の低い半田ゴテで長時間作業をした場合、内部の電子部品が破損する場合があります。

警告

ESCとの接続の際は、必ずA・B・Cの記号が一致したケーブル同士を接続してください。記号の異なるケーブルを接続すると、モーターの回転を制御できない上、ESCやモータに大電流が流れる場合があります。各機器の破損・焼損に繋がります。また、センサレスタイプのブラシレスモータとは異なり、**接続ケーブルを入れ替えてもモーターの回転方向を切り替えることはできません**。必要に応じ、ESCにて回転方向の切り替え^{*}を行なってください。

^{*}回転方向を切り替えるには、ESCに回転方向変更機能を搭載していることが必須となります。TACHYONはこの機能を搭載しています(P.15)

警告

モーターケーブルを交換する場合は、コテ先面積が広く高出力(GOW相当)のハンダコテを使用し、素早く作業を行なってください。出力の弱いコテではハンダが溶けにくいために十分な溶着ができず、振動でケーブルが外れたり、接触不良を起す場合があります。また、長時間過度の加熱をすると内部部品が破損する場合があります。(端子同士がハンダ等でショートしないよう、十分にご注意ください)

警告

モータをモータマウントに固定するビスは、必ず長さ8mm以内のものをご使用ください。

走行前の準備

初めてご使用の際は、お持ちの送信機とESCのニュートラル位置が一致していません。初期設定が完了する前に走行を試みると、スイッチONと同時にモータが回転を始める場合があります。

大変危険ですので、初めて電源を投入する際に、次に説明する「プロポスロットルポジションの初期設定」を必ず行なってください。(初期設定中はモータは回転しません。)

プロポスロットルポジションの初期設定

ご購入直後、あるいは送信機を交換された直後は、送信機のニュートラルポイント-前進側MAXポイント-後進側MAXポイントをESCに記憶させる必要があります。以下の手順で行います。

準備 設定の前に、送信機のスロットルに関する設定(EPA=エンドポイントアジャスト、最大ブレーキ量等)を全て初期状態としてください。設定が変更されていると、送信機の信号をESCが正常に検知せず、初期設定ができません場合があります。

準備 初期設定時は必ずモータとESCをセンサコードで接続してください(走行する際もセンサコードは接続したままにします)。センサコードが接続されていないと、初期設定を行なうことができません。3本(A・B・C)のモータケーブルは外したままで構いませんが、ケーブルのコネクタ同士がショートしないようにご注意ください。

準備 モータケーブルを接続したまま初期設定を行なう場合は、モータを必ずシャーシのモータマウント等に固定し、車体が不用意に動かないようピニオンギヤを外してください。

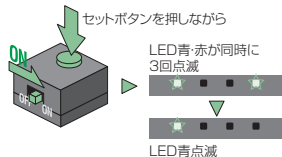
初期設定方法

1 <<初期設定前の注意>>

ESCの電源がOFFであることを確認の上、ESCとバッテリー・モータ(センサコードのみでも可)・受信機を正しく接続してください。その後、送信機の電源を入れます。

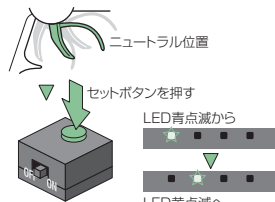
2 <<初期設定モード>>

セットボタンを押しながらESCの電源を入れます。LED青・赤が同時に3回点滅後、LED青が点滅を開始し、初期設定モードに入ります。その後、セットボタンを離します。



3 <<ニュートラルポイントの設定>>

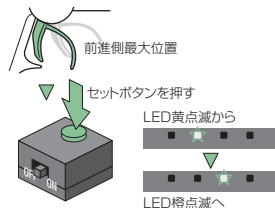
LED青の点滅中に、送信機のスロットルをニュートラル位置に合わせ、セットボタンを短く1回押します。その後、LED黄が点滅します。



4 <<ハイポイントの設定>>

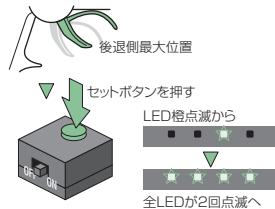
LED黄が点滅している間に、送信機のスロットルを前進側最大位置に合わせ、セットボタンを短く1回押します。その後、LED橙が点滅します。

※前進側最大位置でセットボタンを押してもLED橙の点滅に切り替わらない場合は、後退(ブレーキ)側最大位置に合わせ、セットボタンを短く1回押してください。



5 <<ブレーキハイポイントの設定>>

LED橙が点滅している間に、送信機のスロットルを手順4とは反対側の最大位置に合わせ、セットボタンを短く1回押します。その後、すべてのLEDが2回点滅します。



これでプロポポジションの初期設定は完了です。自動的に、メイン状態(P.8)に移行します。

重要 上記④の<<ハイポイントの設定>>時に※の操作を行なった場合は、プロポポジションの初期設定が全て完了した後、送信機のスロットルチャンネルについて、ノーマル⇄リバースの切替を行なってください。

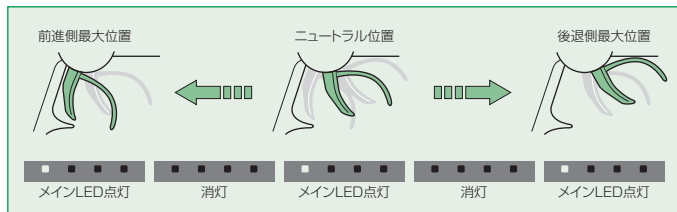
注意 初期設定モード中に無操作状態が約30秒間続くと、強制的に初期設定モードが終了し、メイン状態に移行します。

走行前の準備

プロポポジションの初期設定が正常に完了しているかを確認

スロットルがニュートラル、前進側・後退(ブレーキ)側最大位置にあるときのみメインLED(下記)が点灯し、それ以外の位置で消灯していれば、走行前の初期セットアップは正常に完了しています。

(工場出荷時、スロットルの動きに合わせて点灯⇄消灯と変化するのは、メインLEDのみです)



メインLEDの点灯動作がこの通りでない場合、初期設定が正常に完了していません。送信機のスロットル関係の設定が初期化されているか、RXケーブルの受信機への配線に問題がないかを確認の上、再度初期設定をし直してください。

※駆動部の構造によっては、スロットルを前進側に操作すると車体が後退する場合があります。この場合は、モータの回転方向を変更してください。(P.15)

メイン状態の確認

工場出荷時のメイン状態は下図のようになります。各LED表示の意味は、下記の通りです。



①メインLED(青):工場出荷時 = 点灯

設定モード(P.10)がESCモード時のメインLEDです。プログラムカードモード時は点灯しません。

②サブLED(黄):工場出荷時 = 消灯

工場出荷時には、Ni-cd/Ni-MH/Li-Felに設定されており消灯となります。カットオフ電圧(P.14)がLi-Po2セルまたはLi-Po3セルに設定されているときに点灯します。(カットオフ電圧は、Li-Po/バッテリーご使用の際に設定してください)

重要 走行によりバッテリー電圧が低下してカットオフ電圧に達した場合、LED黄が点滅し、超低速での定速走行となりますので、バッテリーを交換してください。

③サブLED(橙):工場出荷時 = 点灯

バック走行機能(P.14)がONであるときに点灯します。OFFのときは点灯しません。

④メインLED(赤):工場出荷時 = 消灯

設定モードがプログラムカードモード時のメインLEDです。ESCモード時は点灯しません。

重要 走行によりESCが発熱して危険温度に達した場合、ゆっくりとモータが停止し、LED赤が点滅しますので、常温になるまで休ませてください。また、僅かな走行時間でLED赤が点滅する場合、ギヤ比等の設定が過負荷の可能性がありますので、一度ご確認ください。

【重要】バック(後退)走行に関するセーフティ機能について

RCカーでは、ブレーキと後退を同一のスロットル操作で行なうため、「ブレーキをかけたい時に後退してしまう」といった操作上の不都合が生じます。また、モータが前進方向へ回転している最中に突然逆回転に切り替わると、ギヤ類・モータ・ESCに大きな負担がかかる上、場合によっては各部の破損を引き起こします。これらを防ぐために、TACHYONには次の機能を搭載しています。

ブレーキをかけた後、スロットルを一旦ニュートラルに戻し、なおかつ、前進方向へ回転しているモーターが完全に停止するまでは、後退しない。

これにより、バック機能をONにしている場合でも、マシンが前進方向に走行している間はブレーキ側スロットル操作によるマシンの動作がブレーキングのみとなり、意図せぬ急な後退による駆動系パーツの破損や他車との接触等、様々なトラブルを未然に防ぎます。また、小刻みにブレーキをかけながらコーナリングを行なう場合は必須機能と言えます。*このセーフティ機能は解除できません。

以上で走行前の準備は完了です。モータを接続し、走行をお楽しみください。

※リチウムポリマーバッテリーをご使用の場合は、走行の前に、セル数に合わせてカットオフ電圧をLi-Po2セルまたはLi-Po3セルに設定してください。(P.14)

走行フィーリングを変える

設定モードの選択

まず、【ESCモード】、【プログラムカードモード】の何れかを選択します。様々な機能の設定変更を、ESC本体で行なう場合はESCモード、プログラムカードで行なう場合はプログラムカードモードに切り替えてください。工場出荷時は、ESCモードが選択されています。

設定モードの切替方法

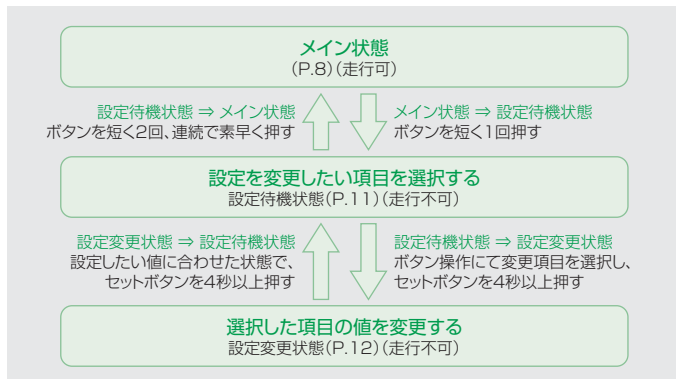
- 1 メイン状態で、セットボタンを4秒以上押し続けます。
- 2 メインLED(青・赤)が入れ替わり、設定モードが切り替わります。

同じ手順を繰り返すことで【ESCモード】(青)と【プログラムカードモード】(赤)が交互に切り替わります。

重要 設定モードによって、設定変更ができる項目や、各数値の可変領域、可変単位が異なります(P.14)。ESCモードでの設定方法は次項以降を、プログラムカードモードでの設定方法はプログラムカードに付属している取扱説明書をご参照ください。

重要 基本的に、設定モードを切り替える前後で設定値は変わりませんが、プログラムモードからESCモードに切り替えた場合、ドライブ周波数・イニシャルスピード・ニュートラルブレーキ・ブレーキパワー(P.11参照)は、自動的にESCモードで使用していた直近の値となります。

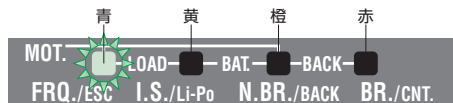
ESCモードによる設定変更の流れ



設定待機状態 (設定モード = ESCモード時)

メイン状態(P.8)でセットボタンを短く1回押すと、LED青が点滅を始め、設定待機状態に入ります。(設定待機状態では、送信機のスロットルを操作してもモータは回転しません。)

設定待機状態
(青LEDが点滅)



「ニュートラルブレーキパワーの調整」を選択している状態



セットボタンを短く1回押す度に点滅LEDが切り替わります。点滅LEDが1個の場合はそのLEDの左下に表示されている略号が、2個の場合は両LEDを結んだ線上の略号が、現在選択している設定項目を表します。(全LEDが点滅する場合の略号表記はありません)

LEDの点滅パターンが表す設定項目
(各項目の詳細は次項参照)

【点滅LED / 略号】…設定の内容

- 【青 / FRQ.】ドライブ周波数の変更
- 【黄 / I.S.】イニシャルスピードの調整
- 【橙 / N.BR.】ニュートラルブレーキパワーの調整
- 【赤 / BR.】ブレーキパワーの調整
- 【青+黄 / LOAD】プリセットプログラムの呼び出し
- 【黄+橙 / BAT】カットオフ電圧の変更
- 【橙+赤 / BACK】バック走行機能のON/OFF切替
- 【青+橙 / MOT】モータ回転方向の変更
- 【全LED / なし】ユーザープログラムの保存

【現在の設定値を確認する方法】

設定待機状態で、現在の設定値を確認したい項目にLEDを合わせて放置します。約3秒後、「設定項目を表すLED」と「その項目の現在の設定値を表すLED」が、交互に切り替わりながら点滅・点灯します。
(「設定項目を表すLED」が2回点滅 ⇔ 「その項目の現在の設定値を表すLED」が点灯)

※セットボタンを1回押すことで、設定待機状態に戻ります。

※LOAD(プログラムロード)の際は、3種のプリセットプログラム設定時は、各種LEDの点灯で確認可能ですが、設定時の表示は、常にLED赤の点灯となります。

走行フィーリングを変える

設定変更状態(ESC設定モード時)

設定変更状態への移り方

設定待機状態(P.11)にて、セットボタンで設定を変更したい項目にLED位置を合わせた後、セットボタンを4秒以上押し続けると、設定変更状態に移ります。(設定変更状態では、送信機のスロットルを操作してもモータは回転しません。)尚、SAVE等、一部の設定項目(P.17下部3項目)では設定変更状態に移りません。

ドライブ周波数(FRQ.)の変更

設定待機状態にてLED青を点滅させ、設定変更状態に入ります。セットボタンを短く1回押すたびに点灯LEDが変化し、それとともないドライブ周波数が次のように変化します。

LED 1個=2KHz / LED 2個=4KHz / LED 3個=8KHz / LED 4個=16KHz

お好みの設定にLEDを合わせ、そのままセットボタンを4秒以上押しします。設定値が決定し、設定待機状態に戻ります。変更後の状態は電源を切るとリセットされますので、設定を保存する場合は、電源を切る前にSAVE(P.15)を行なってください。

解説 数値が低いほど【バッチ力=増 / 加速の滑らかさ=減】となり、数値が高いほど【バッチ力=減 / 加速の滑らかさ=増】となります。

イニシャルスピード(I.S.)の変更

設定待機状態にてLED黄を点滅させ、設定変更状態に入ります。セットボタンを短く1回押すたびに点灯LEDの数が変化し、それとともないイニシャルスピードが次のように変化します。

LED 1個=標準 / LED 2個=中 / LED 3個=大 / LED 4個=最大

お好みの設定にLED数を合わせ、そのままセットボタンを4秒以上押しします。設定値が決定し、設定待機状態に戻ります。変更後の状態は電源を切るとリセットされますので、設定を保存する場合は、電源を切る前にSAVE(P.15)を行なってください。

解説 Initial Speed(初期速度)とは、加速時の瞬間スピードです。過度な設定にすると、路面のグリップ状態によってはタイヤがスピンしますので、適度な状態に設定してください。

ニュートラルブレーキパワー(N.BR.)の変更

設定待機状態にてLED橙を点滅させ、設定変更状態に入ります。セットボタンを短く1回押すたびに点灯LEDの数が変化し、それとともないニュートラルブレーキパワーが次のように変化します。

LED 1個=弱 / LED 2個=標準 / LED 3個=中 / LED 4個=強

お好みの設定にLED数を合わせ、そのままセットボタンを4秒以上押しします。設定値が決定し、設定待機状態に戻ります。変更後の状態は電源を切るとリセットされますので、設定を保存する場合は、電源を切る前にSAVE(P.15)を行なってください。

解説 スロットルをニュートラルに戻した際に自然にかかる制動力の調整です。

ブレーキパワー(BR.)の変更

設定待機状態にてLED赤を点滅させ、設定変更状態に入ります。セットボタンを短く1回押すたびに点灯LEDの数が変化し、それとともないブレーキパワーが次のように変化します。

LED 1個=標準 / LED 2個=中 / LED 3個=大 / LED 4個=最大

お好みの設定にLED数を合わせ、そのままセットボタンを4秒以上押しします。設定値が決定し、設定待機状態に戻ります。変更後の状態は電源を切るとリセットされますので、設定を保存する場合は、電源を切る前にSAVE(P.15)を行なってください。

解説 スロットルをニュートラルからブレーキ側に入れた際にかかるブレーキパワーの調整です。

プリセットプログラムの呼び出し(LOAD)

設定待機状態にてLED青+黄を点滅させ、設定変更状態に入ります。セットボタンを短く1回押すたびに点灯LEDが変化し、それとともない呼び出すプログラム内容が次のように変化します。

青=オフロード向け / 黄=ドリフト向け / 橙=ツーリング向け / 赤=ユーザープログラム
(各プログラムの項目別設定値はP.15を参照)

呼び出したいプログラムのLEDを点灯させ、そのままセットボタンを4秒以上押しします。全ての設定値が変更され、設定待機状態に戻ります。変更後の状態は電源を切るとリセットされますので、設定を保存する場合は、電源を切る前にSAVE(P.15)を行なってください。

解説 各走行カテゴリーに適したプリセットプログラム(P.15)を呼び出します。プリセットプログラムを呼び出した後、各項目をお好みの値に変更することも可能です。ユーザープログラムとは、後述の「SAVE」にて保存したプログラムです。

走行フィーリングを変える

カットオフ電圧の変更 (BAT)

設定待機状態にてLED黄+橙を点滅させ、設定変更状態に入ります。セットボタンを短く1回押すたびに点灯LEDが変化し、それにともないカットオフ電圧が次のように変化します。

LED 青=Li-Po 2セル / LED 黄=Li-Po 3セル / LED 橙=Ni-cd/Ni-MH 6セル以下-Li-Fe
LED 赤=Ni-cd/Ni-MH 7セル / LED 青+黄=Ni-cd/Ni-MH 8セル

設定したいカットオフ電圧のLEDを点灯させ、そのままセットボタンを4秒以上押しします。カットオフ電圧の設定が切り替わり、設定待機状態に戻ります。一旦SAVE(後述)にて設定を保存し、電源を入れ直すことで、カットオフ機能が有効となります。

解説 走行中に電圧が低下し、受信機がノコン状態に陥る前に走行を停止させる機能です。Li-Poをご使用の場合は、過放電によるバッテリーの破損を防ぐ役割も担います。

重要 走行によりバッテリー電圧が低下してカットオフ電圧に達した場合、LED黄が点滅し、超低速での定速走行となりますので、バッテリーを交換してください。

バック走行機能のON/OFF切替 (BACK)

設定待機状態にてLED橙+赤を点滅させ、そのままセットボタンを4秒以上押しします。LEDが点滅し*、バック走行機能のON/OFFが切り替わり、設定待機状態に戻ります。同じ操作の繰り返しにより、ON/OFFが交互に切り替わります。変更後の状態は電源を切るとリセットされますので、設定を保存する場合は、電源を切る前にSAVE(P.15)を行なってください。

*LED青+黄が点滅すればバック走行不可、LED青+黄+橙が点滅すればバック走行可。

機能一覧表

…可変項目

機能名称	ESC設定モード	プログラムカードモード	プリセットプログラム (*プログラムカードモードのみ)				
			オフロード	ドリフト	ツーリング	テクニカル*	ハイスピード*
ドライブ周波数	4種 (2・4・8・16KHz)	4種 (2・4・8・16KHz)	8KHz	8KHz	4KHz	4KHz	16KHz
ブレーキ周波数	2KHz	4種 (2・4・8・16KHz)	2KHz	2KHz	2KHz	2KHz	2KHz
ニュートラルブレーキ周波数	8KHz	4種 (2・4・8・16KHz)	8KHz	8KHz	8KHz	8KHz	8KHz
イニシャルスピード	4段階 (標準・中・大・最大)	0~50% (2%ステップ)	中	大	標準	16%	20%
ニュートラルブレーキパワー	4段階 (弱・標準・中・強)	0~50% (2%ステップ)	中	強	中	8%	4%
ブレーキパワー	4段階 (標準・中・大・最大)	0~50% (2%ステップ)	最大	中	標準	4%	4%
フォワード側 最高速度制限	OFF	50%~OFF (100%) (10%ステップ)		100%		100%	100%
バック側 最高速度制限	25%	25%~OFF (100%) (25%ステップ)		25%		50%	50%
バック機能の有無	ON/OFF 切替 (ON=バック可 / OFF=バック不可)		ON	ON	ON	OFF	OFF
モータ回転方向		正転・反転			正転		
カットオフモード (プログラムカードはカットオフ電圧)	Li-Po 2cell / Li-Po 3cell / Ni-cd/Ni-MH (6cell以下) Li-Fe / Ni-cd/Ni-MH 7cell / Ni-cd/Ni-MH 8cell	Li-Po 2cell--6.6/6.9V, Li-Po 3cell--9.9/10.4V / Ni-cd/Ni-MH/Li-Fe -4.5/4.8/5.0/5.2/5.5/5.8/6.1V	Ni-cd/Ni-MH (6cell<4.8V>)				
進角	2°	0°~30° (2°単位)	2°		4°	6°	
プリセットプログラム	オフロード / ドリフト / ツーリング	オフロード / ドリフト / ツーリング テクニカル / ハイスピード					
ユーザープログラムメモリ数	1種	3種					

モータ回転方向の変更 (MOT)

設定待機状態にてLED青+橙を点滅させ、そのままセットボタンを4秒以上押しします。LED青+黄+橙が同時に2回点滅し、モータの回転方向が切り替わり、設定待機状態に戻ります。変更後の状態は電源を切るとリセットされますので、設定を保存する場合は、電源を切る前にSAVE(P.15)を行なってください。

解説 配線や初期設定が正常に行なわれていないにも関わらず、スロットルを前進側に操作した際に車体が後退する場合があります。これは、車体駆動部の構造によるものですので、このような症状が現れた場合は、本機能にてモータの回転方向を逆転させます。

ユーザープログラム (現在値) の保存 (SAVE)

設定待機状態にて全LEDを点滅させ、セットボタンを4秒以上押すと、全LEDが消灯し、現在の全ての設定値がユーザープログラムとして保存され、メイン状態に戻ります。

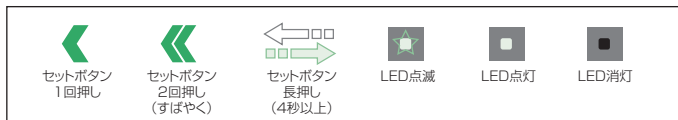
解説 保存したユーザープログラムは、前述のLOADにて呼び出すことができます。尚、ESC設定モードにて保存できるユーザープログラムは1種類です。

工場出荷時のプリセットプログラムについて

工場出荷時は、プリセットプログラム【ドリフト】に設定されています (各項目の設定値は取扱説明書P.15を参照)。お好みに応じ、各設定値を変更してください (設定変更方法はP.10~P.15を参照)。

(注) プログラムカードモードは、別売のプログラムカード【TA0】の利用により設定していただくことができます。
(注) プログラムカードモード時の可変領域および各数値は、変更となる場合があります。

ESCモード セットアップフローチャート



初期設定を行なう場合(P.6)

セットボタンを押しながら電源をON

LED(青+赤)が2回点滅

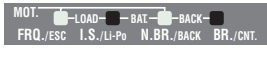
プロポスロットルポジションの初期設定(P.6)

通常

電源スイッチをON

LED(青+赤)が2回点滅

メイン状態(走行可)(P.10)

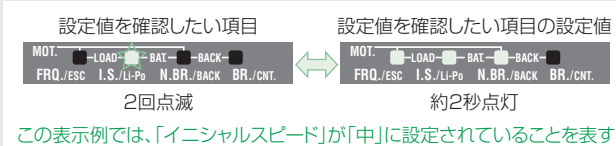


切り替わった後は自動的にメイン状態に復帰

設定モードが切り替わる
ESC設定モード⇄プログラムカード設定モード

現在の設定値を確認する方法

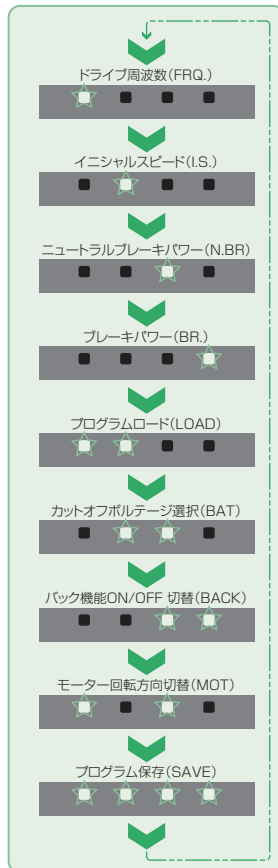
設定待機状態で現在の設定値を確認したい項目に合わせ、約2秒放置



1回ボタンを押すことで設定待機状態に復帰

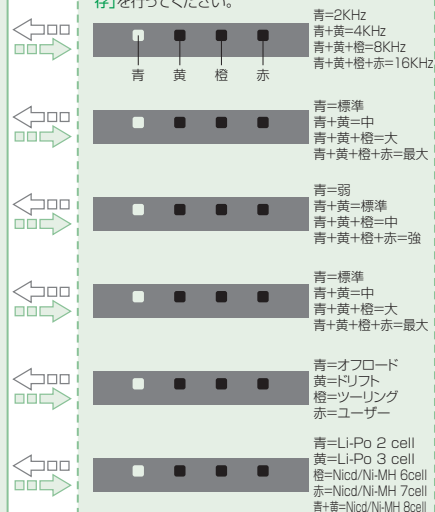
※LOAD(プログラムロード)の際は、3種のプリセットプログラム設定時は、各種LEDの点灯で確認可能ですが、設定時の表示は、常にLED赤の点灯となります。

設定待機状態(走行不可)(P.11)



設定変更状態(走行不可)(P.12)

(注)変更後の値は電源を切るとリセットされるため、設定値を保存する場合は必ず「プログラム保存」を行ってください。



LED青+黄(=BACK OFF)orLED青+黄+橙(=BACK ON)が点滅。BACKのON/OFFが切り替わり、自動的に「設定変更状態」(P.12)へ戻る。

LED青+黄+橙が2回点滅。モーターの回転方向が切り替わり、自動的に「設定変更状態」(P.12)へ戻る。

全LEDが3回点滅。現在のプログラムが【ユーザープログラム】に保存され、自動的に「メイン状態」(P.8)へ戻る。

※メイン状態からセットボタンを1回押しすと「設定待機状態」(走行不可)となります。設定待機状態からセットボタンを2回すばやく押しすと、「メイン状態」(走行可)となります。

- ①本機は、ESC内部の発熱を遠赤外線に変換して放射する、『H.T.R.S』を搭載しています。電動ファンやデカールシール等でセラミックボード表面を覆うと、この効果が著しく損なわれ、ESC本体が破損することもありますので、ご注意ください。
- ②本機付属のキャパシタが破損した場合は、内部回路も同時に破損している可能性があります。このような場合は、修理対応となりますので、弊社までお問合せください。
- ③本機付属のキャパシタは、弊社より発売しております『シュバリエシリーズ』に交換していただくと、加速・燃費等でより高い効果が得られます。